



ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 297

*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

(問) 「ぶらりらいぶらりい」のバックナンバー、No. 274にて昭和館図書室の労働省婦人少年局関連資料について紹介している記事を読み、初代局長の山川菊栄の在任期間を知りたくなった。また局長就任前後の山川の写真が掲載されている本も見たい。

(答) 来館者端末で所蔵確認を行う他に、事典を引くことも調べものを進める手がかりのひとつです。昭和館図書室では参考図書は閲覧室の16番書架にまとめています。

『日本官僚制総合事典』(317/N71 開架参考 000042715)

今回は16番書架のこちらの事典で「主要官職の任免変遷」から「労働省」の「婦人局長」の項目を引いてみましょう。山川菊栄の在任期間がわかります。

次は写真が掲載されている本を来館者端末で調べます。同端末は書誌や目次などの文字情報のみから検索を行うため、お探しの写真が掲載されているのかヒットした本を確認する必要があります。

詳細検索 ⇒ キーワード **労働省** **山川菊栄** ⇒ 25件ヒット

検索結果から**資料の種類**で図書のみ選択して7件まで絞り込むことができます。

『昭和 第8巻』(210.7/Ko19/8 開架大型 000025601)

その他のキーワードからも検索してみます。

詳細検索 ⇒ キーワード **労働省** **婦人局長** ⇒ 1件ヒット

『朝日新聞に見る日本の歩み 昭和22年-23年(焦土に築く民主主義2)』

(210.6/A82/1947-48 閉架一般 000030670)

昭和22年の朝日新聞の記事に、写真とともに局長就任にあたって語られた決意が掲載されています。山川の著書からも探してみましょう。

図書 ⇒ **著者名等から探す** ⇒ キーワード **山川菊栄** ⇒ **山川菊栄**より2件ヒット

『女性解放へ』(367.2/Y27 地下書庫婦人少年局図書 080007915)

労働省時代の写真が2枚掲載されています。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



戦時下の演劇 『女の一生』と『桜の園』

図書室では、3月31日まで、ハンゴール（壁展示）にて「戦中から戦後・復興期の演劇」というテーマで新劇から歌舞伎までのさまざまな資料を展示しました。図書室で所蔵する図書の中から、戦争が演劇、主に新劇にどのような影響を与えたかを追います。

昭和12年（1937）、日中戦争が始まると、翌13年には国家総動員法が公布され、国を一つにして戦争へ向かっていこうという体制が築られました。演劇や映画などの文化も容赦なく統制されていきます。当時の新劇運動は、築地小劇場を拠点に新協劇団と新築地劇団が活動をしていました。また、昭和12年には岸田國士・岩田豊雄・久保田万太郎を中心とした「文学座」も結成されていました。そんななか昭和15年8月、新協・新築地の両劇団員が警視庁の特別高等警察に大量検挙され、社会主義的な色彩の濃い劇団は国情に適さないからと自発的に解散するように求められました。新劇も戦争協力の姿勢なしには存続不可能となったのです。築地小劇場も「国民新劇場」と時局向きに改名しました。

昭和16年6月、大政翼賛会文化部の提唱で日本移動演劇連盟が結成され、多くの劇団が全国の工場や鉱山、農山漁村に出かけ移動演劇を行うこととなりました。戦意高揚と増産推進が目的の移動演劇でしたが、農村や工場で働く人たちにとっては、演劇に初めて接する機会にもなりました。また、外地の兵隊を慰問する活動もありました。これらの移動演劇には、松竹や東宝、吉本興業などの大きな興行会社から生まれた移動演劇隊をはじめ、瑞穂劇団、文学座、文化座などが参加しました。参加していた劇団のなかには、昭和20年8月6日の原爆で犠牲になった人たちもいました。築地小劇場で活躍した丸山定夫や、宝塚歌劇団出身の園井恵子らが所属していた桜隊です。

終戦の年の『女の一生』

一方、東京の国民新劇場でも3月10日の東京大空襲で焼失するまで上演が続けられていました。この年、文学座を代表する作品が生まれます。森本薫作『女の一生』。初演から杉村春子が演じ、その演技とともに記憶される名作です。布引けいという女性の一代記で、「誰が選んでくれたものでもない、自分で選んで歩きだした道ですもの」は名台詞として語り継がれています。この舞台は、築地が焼けたことで渋谷の東横映画劇場で空襲の合間をぬって4月11日から5日間上演されました。

『桜の園』から始まった戦後の新劇

8月15日をむかえ、戦中は移動演劇隊として国策に添うかたちで地方巡業に従事していた演劇人たちは新劇の復興へ乗り出しました。その旗揚げとなったのが、終戦から4ヶ月後の12月26日から有楽座で上演されたチェーホフの戯曲『桜の園』です。俳優座・文学座・東芸の合同公演で、戦後演劇のスタートを飾りました。

参考文献：『図説 昭和の歴史 第8巻』集英社 210.7/Sh97/8 開架大型 000018526
『戦時下の演劇 国策劇・外地・収容所』神山彰 編者 森話社 772/Ka39 開架一般 000069936
『日本演劇思想史講義』西堂行人 著 論創社 772/N81 地下書庫和図書 000065889

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 297

2026年3月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1